

十勝岳

1 平成 17 年の活動概況

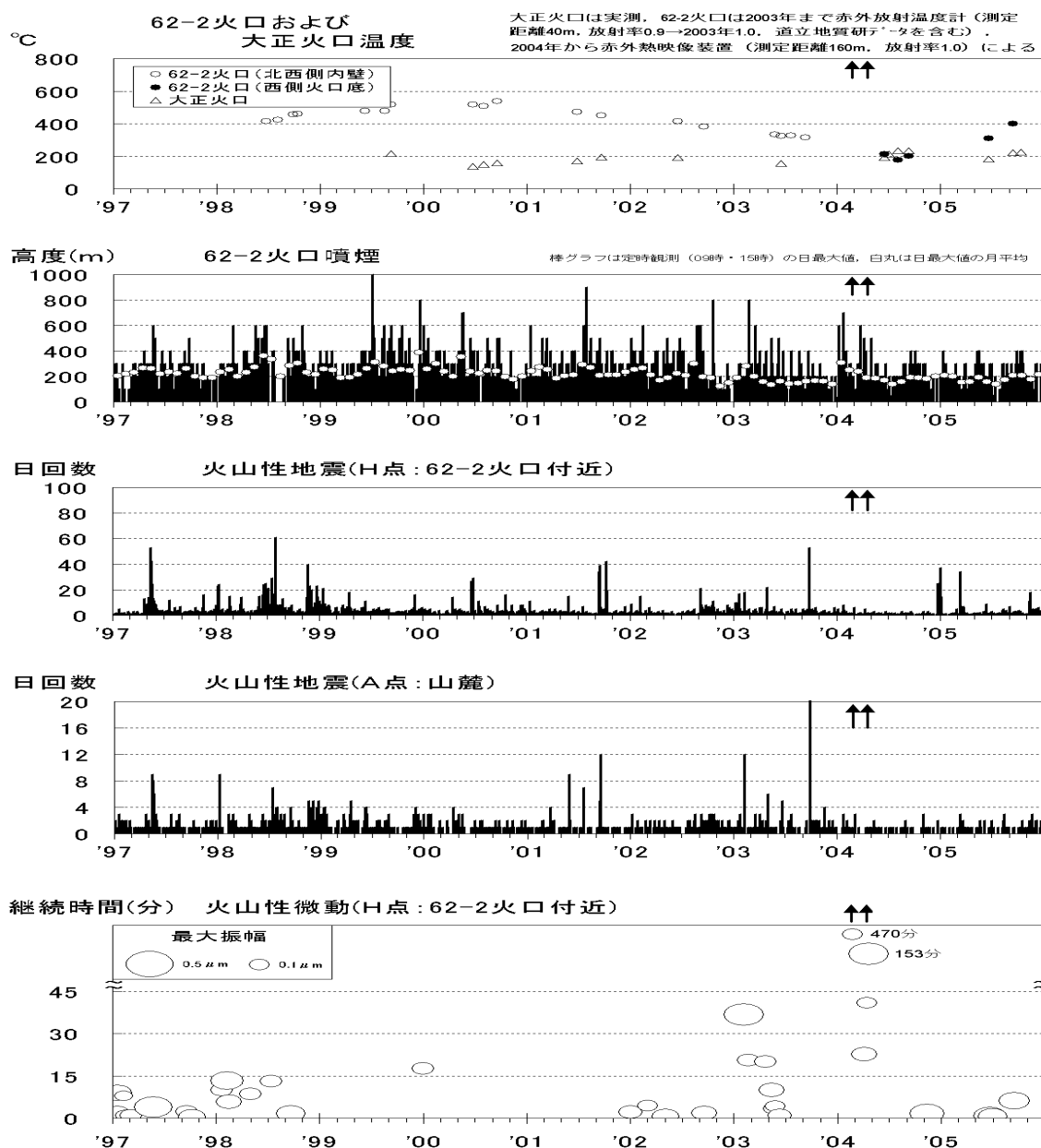
62-2 火口は噴煙活動が活発で高温の状態が続き、火山活動はやや活発な状態で経過しました。6 月と 7 月および 9 月には振幅の小さな火山性微動が発生しました。

平成 17 年の主な火山活動と火山情報の発表状況

時期	火山活動	火山情報発表状況
6 月 28 日	振幅の小さな火山性微動発生（継続時間約 1 分）	発表なし
7 月 7 日	振幅の小さな火山性微動発生（継続時間約 40 秒）	
9 月 21 日	振幅の小さな火山性微動発生（継続時間約 6 分）	

2 噴煙活動の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続き、噴煙高度は火口縁から概ね 200m で推移しました。



最近の火山活動経過図（1997 年 1 月 1 日～2005 年 12 月 31 日） はごく小規模な噴火

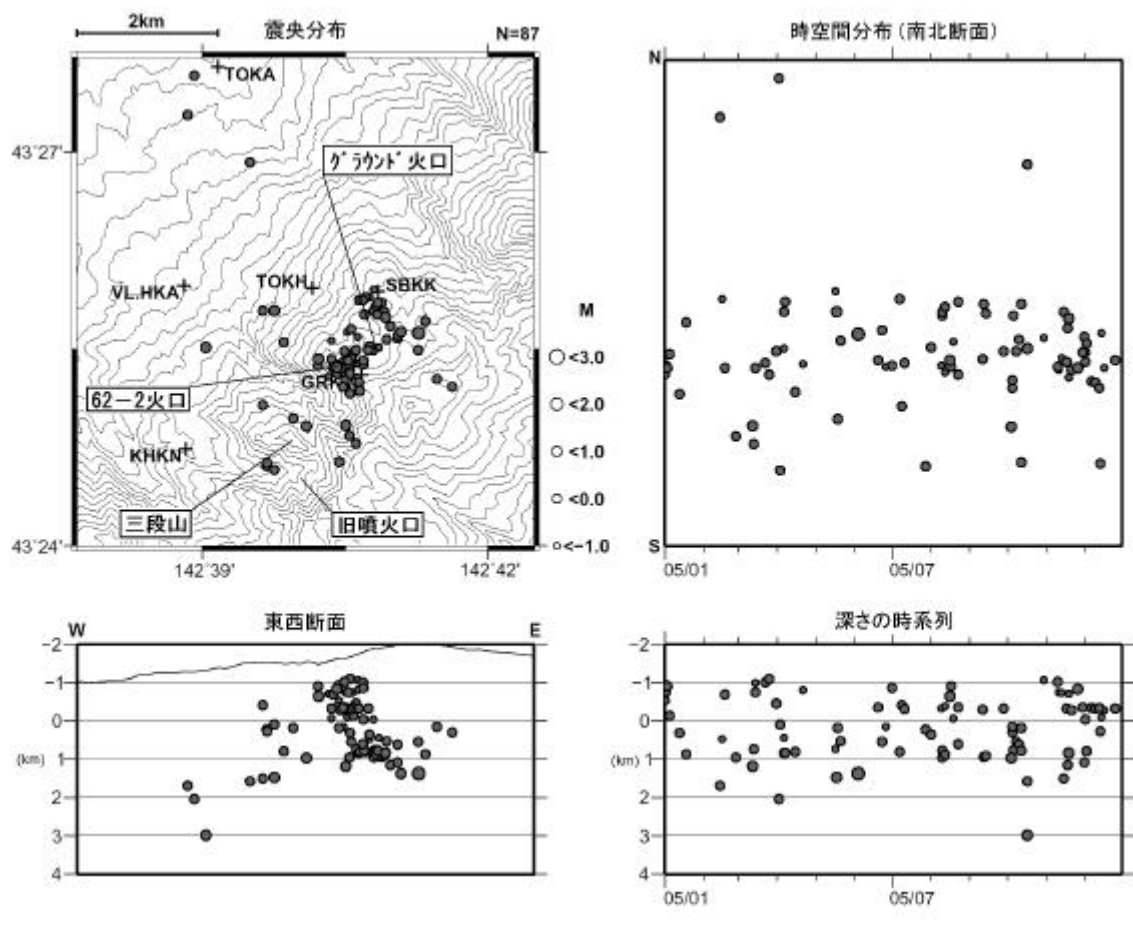
十勝岳の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。

3 地震活動の状況

62-2 火口に近いH点（62-2 火口の北西約 1.2km 地点）の地震計で 6 月 28 日、7 月 7 日、および 9 月 21 日に振幅の小さな火山性微動が観測されました。微動の発生源は 62-2 火口周辺の浅部と推定され、同火口周辺浅部における地下水や火山ガスが関係した小規模な現象と考えられます。なお、これらの微動発生前後で火山性地震の増加は見られませんでした。

月別地震・微動回数

2005 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
地震回数 H 点	60	20	86	14	14	26	17	41	29	25	78	69
地震回数 A 点	4	2	11	4	5	3	4	13	2	7	14	9
微動回数 H 点	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0



十勝岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点 気象庁と北海道のデータを使用）

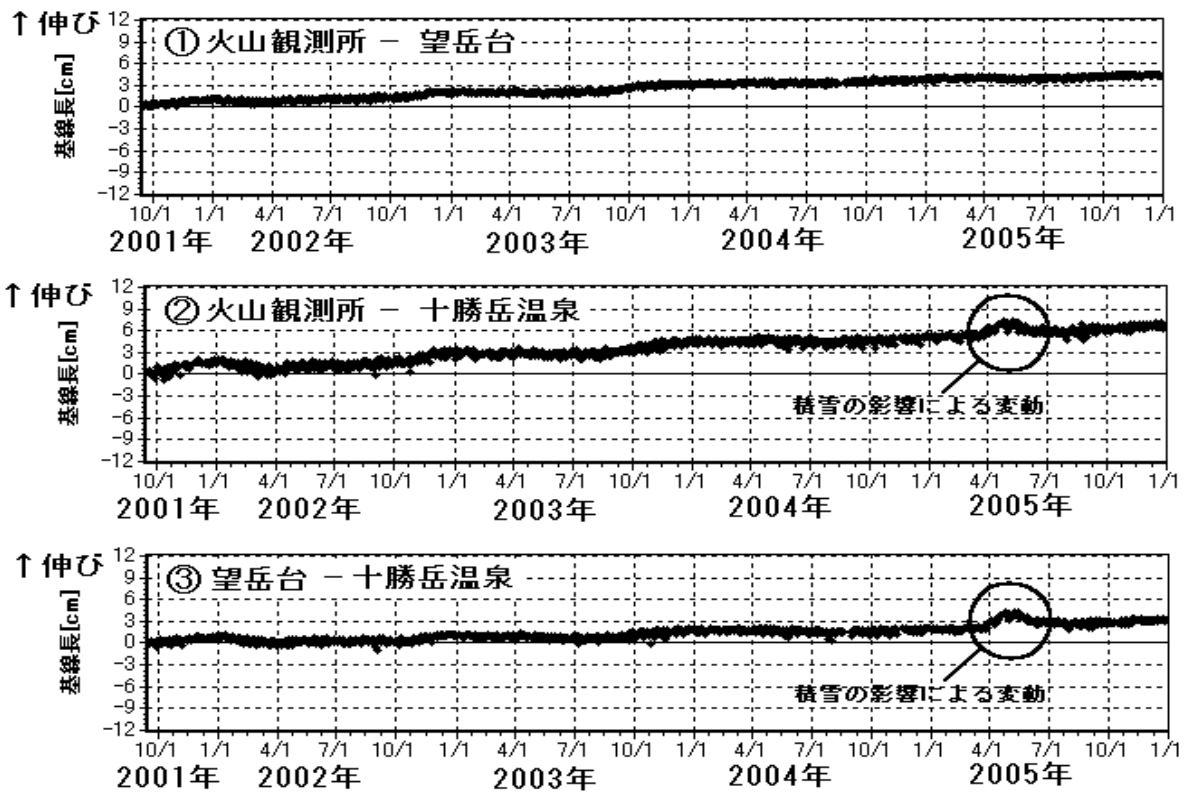
印は 2005 年 1 月 1 日～12 月 31 日の 1 年間に求まった震源を示しています、震源はグラウンド火口周辺と三段山～旧噴火口周辺の浅部（海面上 1km～海面下 1km 程度）に集中しています。

震源分布図の説明

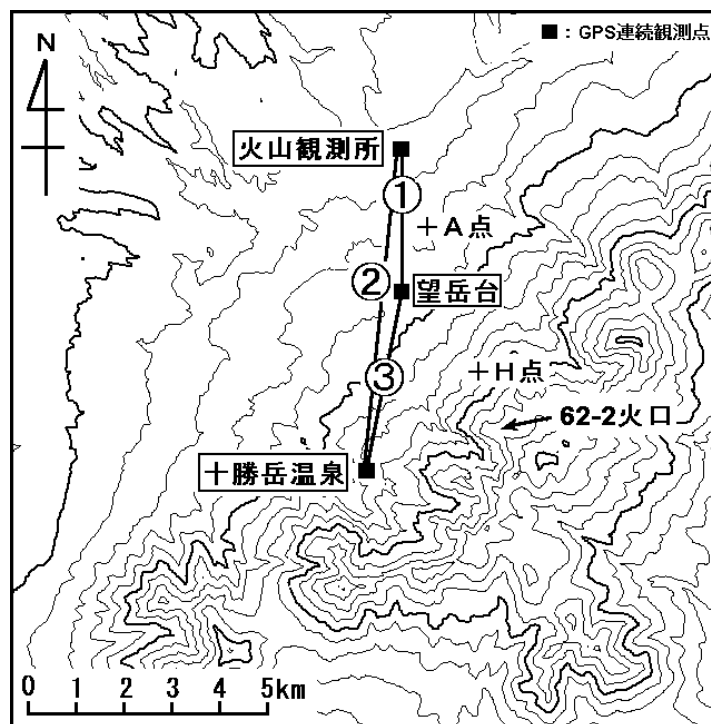
- ・東西断面 :震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。
- ・時空間分布 :震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。
- ・深さの時系列 :時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

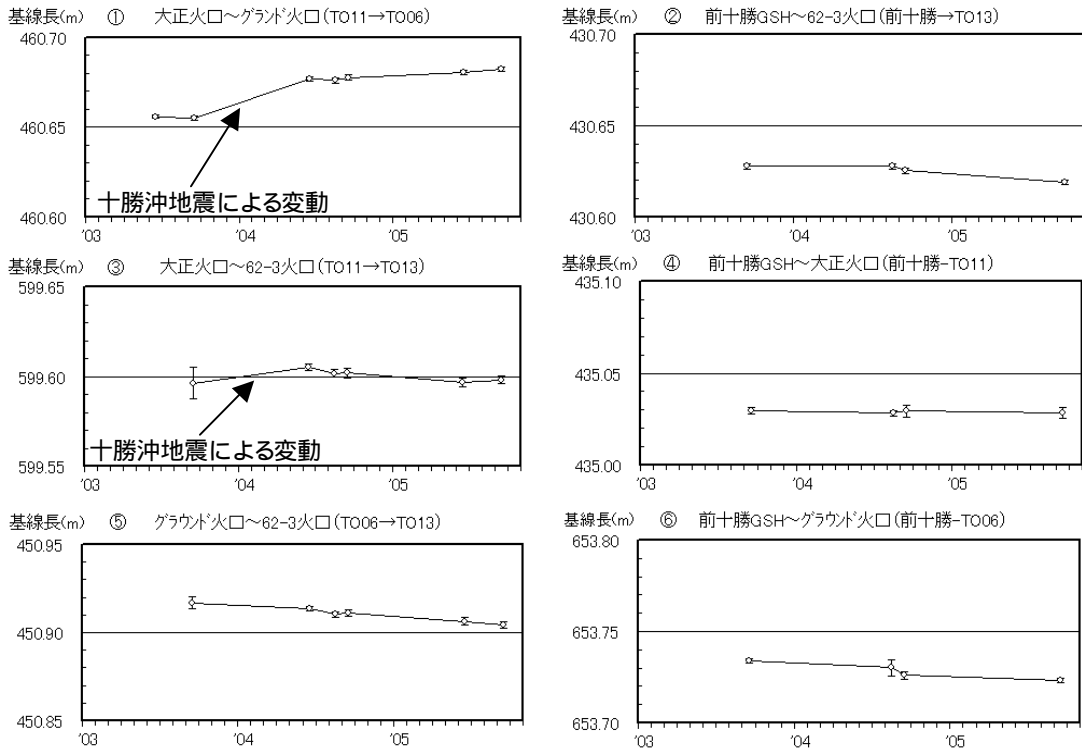
4 地殻変動の状況

GPS 連続観測および GPS 繰り返し観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められませんでした。

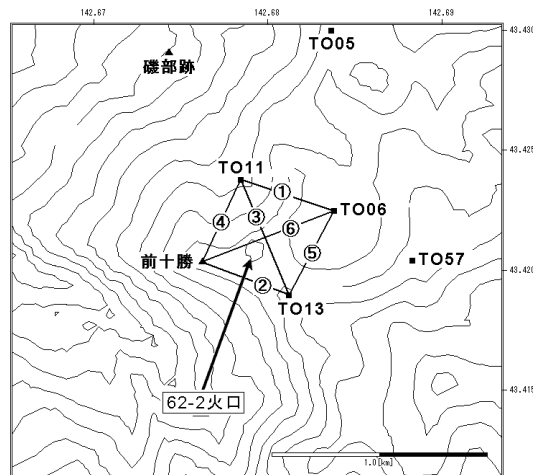


GPS 連続観測 基線長変化（2001年9月13日～2005年12月31日）





GPS 繰り返し観測による 62 - 2 火口周辺の基線長変化

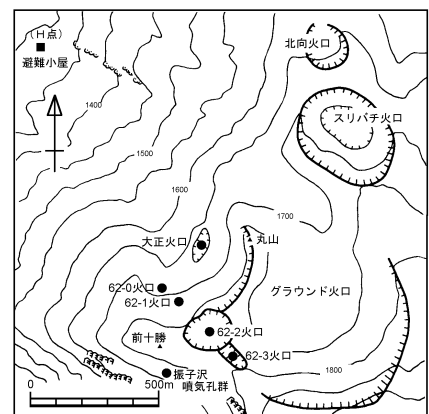


山頂 GPS 繰り返し観測点

5 調査観測の結果

6月および9月に調査観測を実施しました。62-2火口では活発な噴煙活動が続いており、火口縁では強い刺激臭が認められました。西側火口底の噴気孔からは、透明な火山ガスを勢いよく噴出する非常に活発な噴気活動が継続していました。赤外熱映像装置*により測定した噴気孔の温度は6月では約300、9月では約400と、昨年9月(約200)以降上昇傾向が続いています。遠距離(約160m離れた地点)からの測定のため、実際の温度はかなりの高温であると推定されます。

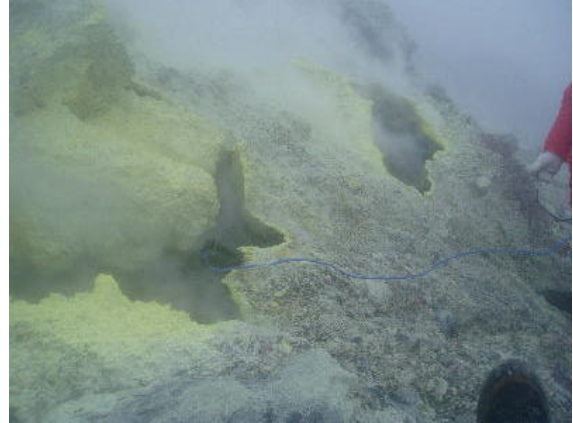
その他の火口の状況には特段の変化は認められませんでした。



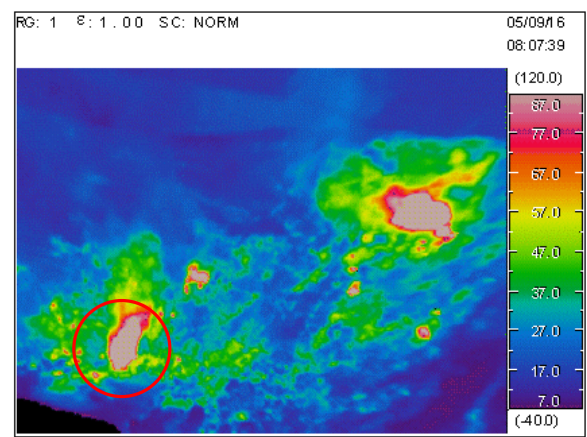
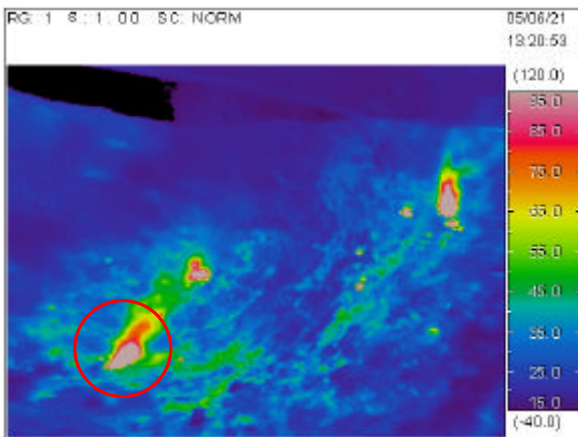
62-2 火口周辺図



前十勝から撮影した大正火口と 62-2 火口
（2005 年 9 月 15 日撮影）



大正火口東壁上部の噴気孔
（2005 年 9 月 13 日撮影）



赤外熱映像装置による 62-2 火口の表面温度分布 西側火口底の活発な噴気孔
（左：2005 年 6 月 21 日撮影 右：2005 年 9 月 16 日撮影）
西側火口底の噴気孔からは、透明な噴気が非常に勢いよく噴出している。

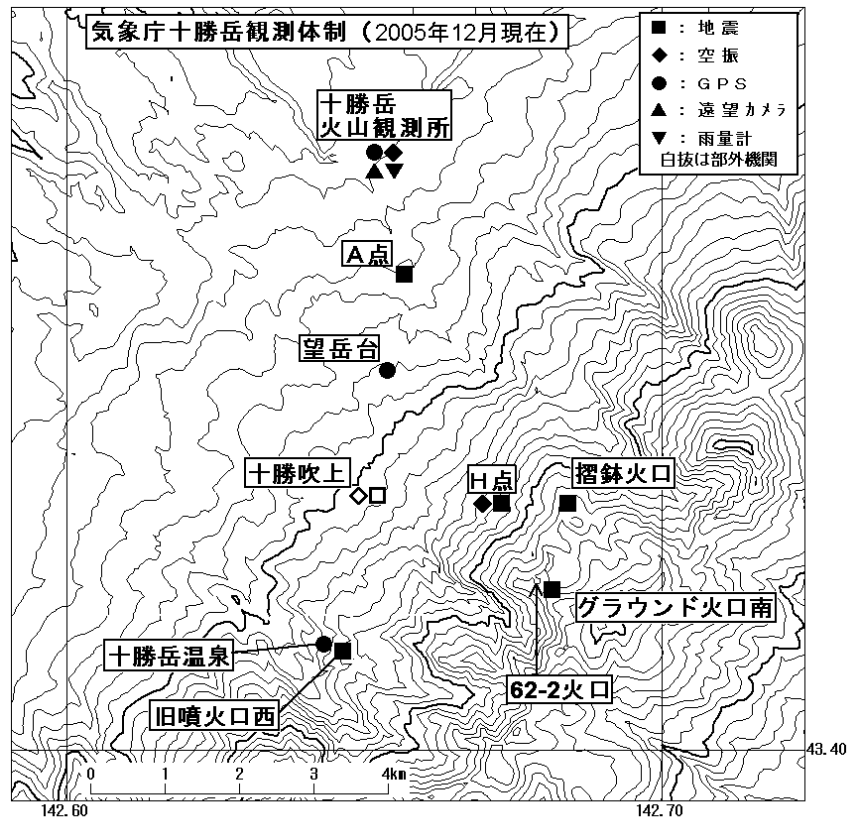
* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

6 上空からの観測結果

北海道開発局の協力により、8月24日、9月12日および10月26日に上空からの観測を実施しました。

62-2 火口、大正火口、旧噴火口などの状況にこれまでと比べて特に変化は見られませんでした。62-2 火口では活発な噴煙活動が続いており、白色またはやや青みを帯びた噴煙が噴出していました。

観測点情報



観測点一覧表 十勝岳 (位置は世界測地系)

記号	観測機器	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始年月
			緯度(度分)	経度(度分)	標高(m)		
	地震計	A点	43 27.7	142 39.2	763	0	1964年4月
		H点	43 26.0	142 40.2	1355	-2	1997年1月
		摺鉢火口	43 25.9	142 40.8	1685	0	2003年7月
		グラウンド火口南	43 25.3	142 40.7	1802	0	2003年7月
		旧噴火口西	43 24.7	142 38.8	1285	0	2003年7月
		十勝吹上	43 26.0	142 38.8	1044	-1	2004年7月
	空振計	火山観測所	43 28.5	142 39.0	651	4	1989年10月
		H点	43 26.0	142 40.2	1355	4	1997年9月
		十勝吹上	43 26.0	142 38.8	1044	4	2004年7月
	遠望カメラ	火山観測所	43 28.5	142 39.0	651	4	1989年10月
	GPS	火山観測所	43 28.5	142 39.0	651	8	2001年9月
		望岳台	43 26.9	142 39.0	924	4	2001年9月
		十勝岳温泉	43 24.9	142 38.6	1369	4	2001年9月